

1 教育と子育ての諸課題

(1) 教職員の多忙化について

文部科学省は、2016年10月～11月に実施した教員勤務実態調査の集計結果(速報値)を公表している。全国から抽出した小学校397校、中学校399校の10,687人からの回答を集計したものである。教諭の1日当たりの学内総労働時間は、小学校で11時間15分、中学校で11時間32分であり、所定内労働時間を大きく上回っている。2006年の前回調査と比べて、小学校の平日で43分、土日で49分、中学校の平日で32分、土日で1時間49分も増加している、とのことである。1週間当たりの学内総勤務時間数が60時間以上と答えた人は、小学校で33.5%、中学校で57.6%にのぼり、週60時間以上の勤務は、1カ月あたりに換算すると、厚労省の過労死ライン80時間を超える時間外勤務をしている。

磐田市でも同様の調査をされているのか。現状を伺う。

文部科学省の調査では、土日については、中学校で部活動にあたる時間が増えている、とのことである。磐田市の現状について伺う。

文部科学省では部活の休養日の設定を求める通知を全国の教育委員会に出している。通知の内容と今後の対応について伺う。

今後の教職員の多忙化に対する取り組みと課題を伺う。

(2) 学校施設の改修について

教育委員会はトイレの洋式化を進めているが、まだまだ十分とは言えないと考える。中学校では少ない洋式トイレを女子生徒が順番待ちをしているとの声を聞いている。教育委員会は「耐震工事にあわせて洋式化を進めていきたい」と、以前の議会で答弁されている。早期に洋式化を進めるべきだと考えるが、現状と課題を伺う。

磐田北小学校のプールが新しくなった。市内の学校では建築年度が古いプールがあるが、現状と今後の改修計画について伺う。

- (3) 毎年インフルエンザによる学級閉鎖が行われている。4月に入ってもインフルエンザによる学級閉鎖が報告されていた。

児童生徒のインフルエンザ感染状況と学校における予防対策について伺う。

保護者からインフルエンザ予防接種に助成をして欲しい、との声がある。児童生徒のインフルエンザ予防接種の現状と予防接種に対する助成についての見解を伺う。

- (4) 小中学校での茶の提供について

県内の子どもたちに茶に親しんでもらうことを目的にした児童生徒の静岡茶愛飲促進条例に基づく県民会議が開催されたと報道されている。会議では、2019年までに県内の全小中学校で茶を提供できる環境づくりを目指すことを確認している。現在小中学校で茶が提供されているのは県内806校の小中学校のうち287校、とのことである。

磐田市でも茶が提供されている小中学校があるが、現状と課題について伺う。

静岡茶愛飲促進条例に対して小中学校現場では、教職員の多忙化につながるのでは、との意見もあるが、見解を伺う。

県民会議では、「2019年までに県内の全小中学校で茶を提供できる環境づくりを目指す」としている。どのように対応されるのか伺う。

- (5) JRの特定者用の通勤定期乗車券の利用について

児童扶養手当法に基づいて児童扶養手当の支給を受けている世帯の世帯員の方、及び生活保護法に基づいて保護を受けている世帯の世帯員に対して旅客鉄道株式会社（JR）は、「特定者用の通勤定期乗車券」を発売している。学割は通勤定期乗車券の運賃は2割引であるが、特定者用の通勤定期乗車券は通勤定期乗車券の運賃を3割引したものである。この制度を利用するには、「特定者資格証明書」の交付を受けるとともに、定期券を駅で求める際に「特定者用定期乗車券購入証明書」の提出が必要になる。「特定者資格証明書」及び「特定者用定期乗車券購入証明書」は、児童扶養手当の支給対象者の方は市町の長が、生活保護の支給対象者の方は福祉事務所長が発行することになっている。

児童扶養手当の支給を受けている世帯での制度の利用状況について伺う。

制度の周知がどのようにされているのか。磐田市のホームページを見てもよくわからないが、改善策について伺う。

(6) 親子の居場所づくりについて

子どもと過ごす時間を増やしたいと考える親世代が多くなっていると思う。安久路公園などがあるものの、市内には親子が安心して楽しく遊べる場所や環境が不足している。掛川市のたまりーな22世紀の丘公園には親子で遊べる遊具があり、市外から多くの家族連れが来て喜ばれている。磐田市にも是非そのような公園が欲しい、との声が寄せられている。

親子で遊べる新たな公園の建設や兎山公園のリニューアル等に対する見解を伺う。

最近、室内で親子が遊べる施設なども作られている。以前駅前の再開発ビルにもあったように記憶しているが、こうした施設について見解を伺う。

2 市民の安全・安心について

- (1) 天竜川の上流に位置する長野県宮田村に福島第一原発事故により、放射能汚染された8,000ベクレル/kgまでの廃棄物が持ち込まれる最終処分場建設計画がある。予定地は天竜川と太田切川の合流地点で、水位が高い地下水が複数存在し、天竜川の汚染が強く懸念されている。全国から10万人の反対署名が集められ建設中止を求めています。上伊那・下伊那地域の自治体からも懸念され、議会で建設中止を求める決議もされている。静岡県内の浜松市、磐田市も天竜川の水を利用している。磐田市民としても他人ごとではないと考える。

この計画についての認識を伺う。

建設計画に関する情報収集と対応について伺う。

3 健康づくりについて

- (1) 平成25年データに基づく都道府県別健康寿命では静岡県は男性が72.13歳で全国3位、女性は75.61歳で全国2位であった。県は健康長寿の理由として、地場の食材が豊富で食生活が豊か、全国一のお茶の産地であり、日ごろからお茶をたくさん飲んでいる、元気に働いている高齢者が多い、温暖な気候からくる穏やかな県民性をあげている。市町別の健康寿命(静岡県はお達者度)でみると磐田市の男性は7番目、女性は13番目となっている。第2次磐田市健康増進計画「健康いわた21」では基本的な方向として、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が示されている。

磐田市の健康寿命の現状に対する見解を伺う。

健康寿命の延伸と健康格差の縮小をどのように図っていくのか。健康寿命日本一の磐田を目指し、施策の充実を図るべきと考える。見解を伺う。

- (2) 食育基本法に基づき、平成25年度から平成29年度までの5年間の「第2次磐田市食育推進計画」が策定されている。今後新たな計画が策定されると考えられる。

これまでの取り組みの評価と課題について伺う。

今後の第3次磐田市食育推進計画のスケジュールについて伺う。